

平成 17 年 2 月 12 日
国土交通省金沢河川国道事務所

「第 4 回 手取川水系流域委員会」の審議結果（議事要旨）について

去る、平成 17 年 1 月 12 日（水）に、金沢市内で『第 4 回手取川水系流域委員会』が開催されました。会議では、事務局から『手取川の現状と課題』について、これまでに伺った質問に対する報告があった後、各委員による審議が行われました。主な意見は次のとおりです。

出席委員：以下 22 名（3 名欠席、敬称略・専門分野別五十音順） 印は会長

氏 名	専門分野	所 属
辻本 哲郎	河川工学	名古屋大学大学院 教授
佐野 修	自然環境(魚介類)	いしかわ動物園 飼育第二課長
中村 浩二	自然環境(生態学)	金沢大学自然計測応用研究センター 教授
中村 正博	自然環境(鳥 類)	日本野鳥の会石川県支部 事務局長
野崎 英吉	自然環境(哺乳類)	石川県環境安全部自然保護課 課長補佐
古池 博	自然環境(植 物)	石川県地域植物研究会 会長
中川 耕二	地下水・地質	北陸地盤工学研究会 前会長
藤 則雄	地下水・地質	金沢学院大学美術文化学部 教授
村島 和男	農業土木	石川県農業短期大学 教授
吉田 武雄	農業水利	石川県土地改良事業団体連合会 副会長
鹿島 博史	エネルギー	北陸電力(株)石川支店 技術部長
宮崎 光二	内水面漁業	石川県内水面漁場管理委員会 委員長
池本 良子	水 質	金沢大学工学部 助教授
車 幸治	地域社会	手取川流域開発期成同盟会会長、鶴来町長
永井 隆一	地域社会	石川県砂防協会会長、白峰村長
西田 耕豊	地域社会	石川県治水協会会長、川北町長
山崎 正夫	地域社会	手取川流域開発期成同盟会副会長、尾口村長
小堀 幸穂	地域経済	鶴来商工会 副会長
長谷川孝徳	歴史・文化・文芸・教育	石川県立歴史博物館 学芸専門員
平野 俊也	歴史・文化・文芸・教育	前水辺の楽校推進協議会委員長、寺井町立図書館長
三田 薫子	歴史・文化・文芸・教育	作 家
米田 満	歴史・文化・文芸・教育	白山地域自然保護懇話会 座長

欠席者

玉井 信行	河川工学	金沢大学大学院 教授
富樫 一次	自然環境(昆虫類)	石川県ふれあい昆虫館 館長
高澤 基	報 道	北國新聞社 専務取締役

○議事要旨

1. 手取川の治水計画について

1) 融雪の影響について

- ・ 昭和9年の手取川の洪水は、融雪の影響が大きかったと聞いているが、現在の手取川の治水計画上どの程度の融雪の影響を考えているのか。
- ・ 昭和9年洪水流量の検証は、痕跡水位を基にされており、その結果、計画高水流量と同程度なので問題ないのではないか。
- ・ 北陸地方の特性として洪水期まで残雪があることがある。そのような状況を想定し、残雪の融雪の影響を考慮した治水計画のあり方について検討が今後必要。

2) 計画の基本諸元について

- ・ 手取川の降雨継続時間は1日となっているが大丈夫なのか。

【事務局回答】

(過去の洪水の実績を見ると、ほとんどの洪水が降雨は1日で終わっている。2日以上降雨が続く洪水もあるが、その内の80%以上は24時間以内に集中しており、1日で対応すべきと考えている)

3) 治水施設について

- ・ 木曽川でも取り入れられているが、堤防でがちがちを守る治水ではなく、自然の力をうまく活用し、洪水をいなすような方策も検討のこと。
- ・ 霞堤の現況の治水機能について検討すること。
- ・ 魚類の生息環境にも配慮した、自然にやさしい工法もとり入れられたい。
- ・ 川への住民意識を高める取り組みについて検討すること。
- ・ 河川堤防の管理用道路の位置付けを明確にし、管理に必要な安全対策について検討のこと。

2. 手取川扇状地の地下水位の動向

- ・ 河道の河床低下と地下水位の変化の相関についても整理しておくこと。
- ・ 地下水の流向や影響範囲の調査手法も今後の課題。
- ・ 手取川扇状地の特徴である湧水に関わる生物の生息環境を保全することも課題である。
- ・ 井関地下水位観測所は、特異な観測所であるため検討から外した方がよい。

3. 水質の現状

- ・ 水利用の取排水経路と水量を踏まえて、手取川の水質の現状を整理すること。
- ・ 親水利用の観点からみた水質についても検討すること。
- ・ 上流の風嵐観測所で大腸菌群数が高い数値を示しているが、その原因の調査も検討した方がよい。

4．平成16年 手取川の濁水の現状

- ・ 水利用の取排水経路と水量を踏まえて、手取川の水質の現状を整理すること。

5．河道内の植生の管理について

- ・ 「河川環境の整備と保全」は河川法改正の中心点であるが、科学的な植生管理はその重要な内容の一つである。したがって、植生管理は河道内の樹木管理のみに限定されるものではなく、草本植物群落を含めた植生の総体について行うべきものである。また、高水敷・堤防の植生管理や河川周辺についても適切に実施する必要がある。

6．土砂動態の現状

- ・ 手取川ダム等に堆砂している土砂の量や質、海に流れていく土砂量等を踏まえ、土砂動態を整理しておくこと。

7．生物データの整理

- ・ 流域全体の生物データを収集し、長期的な変化と現状が把握できるように整理すること。

以 上

お問合せ先

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所

調査第一課長 二 俣（ふたまた）

TEL 076-264-8800(代) (内線)351